

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年8月27日（月）～平成30年9月2日（日）〔平成30年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)ヘルパンギーナでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.46人と前週（3.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

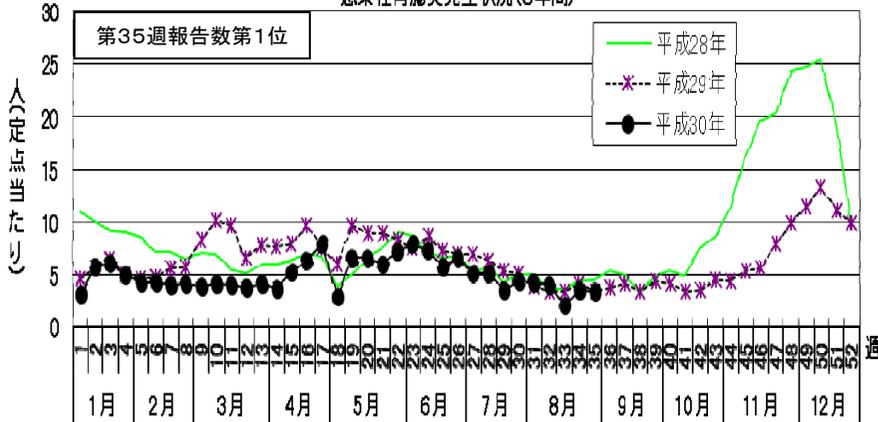
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.19人と前週（2.09人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.03人と前週（2.37人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

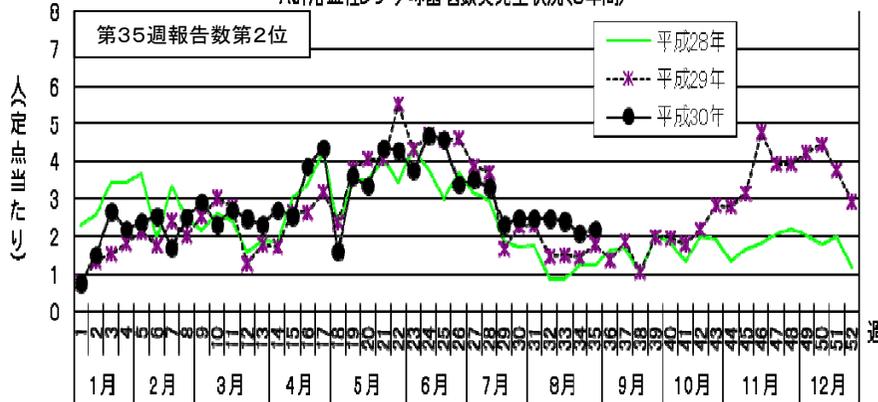
★風しんウイルス★
ルペラくん



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



風しんが流行しています！～特に成人男性は要注意～

7月下旬以降、千葉県、東京都、神奈川県などの首都圏を中心に風しんの患者報告数が急増しています。年齢階級別では、男性は30歳代～40歳代、女性は20歳代での報告が特に多くなっています。

川崎市においても、平成30年第1週～第35週（1月1日～9月2日）までに計13件の患者が報告されており、30歳代～40歳代の男性が約7割を占めていました。風しんに関する正しい知識を持ち、予防対策等を徹底しましょう。

風しんとは？

感染経路:主に飛沫感染

潜伏期間:2～3週間（平均16～18日）

感染可能期間:発疹出現の1週間前～1週間後

主な症状:発熱、発疹、リンパ節の腫れ

予防方法:風しん含有ワクチンの接種

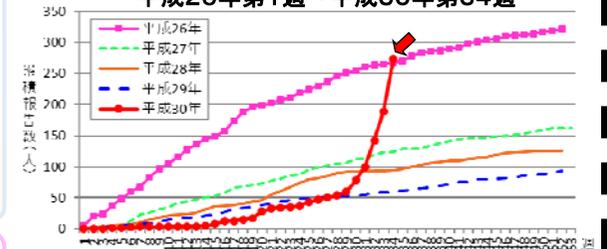
先天性風しん症候群(CRS)とは？

妊娠20週頃まで（特に妊娠初期）の妊婦が風しんに感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などの症状を呈する先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。

妊娠前に2回（幼少期を含む）風しん含有ワクチンを接種することによって、妊娠中に風しんにかかることを予防できます。

※ただし、妊娠中は風しんの予防接種を受けることはできません。

全国における風しん累積報告数
-平成26年第1週～平成30年第34週-



全国における風しん性別・年齢階級別発生状況
-平成30年第1週～第34週-

